

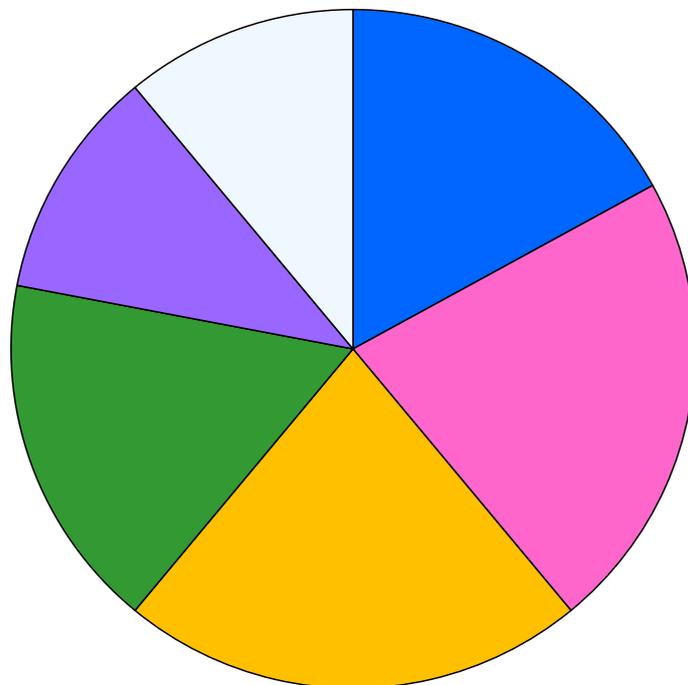
プログラム名 自宅で母と夫を看取り、一人になってしみじみ思うこと  
～「介護」が愛おしい～第9回デジタルTERA小屋 藤原瑠美さん

単元名 RA

アンケートタイトル 自宅で母と夫を看取り、一人になってしみじみ思うこと  
～「介護」が愛おしい～第9回デジタルTERA小屋

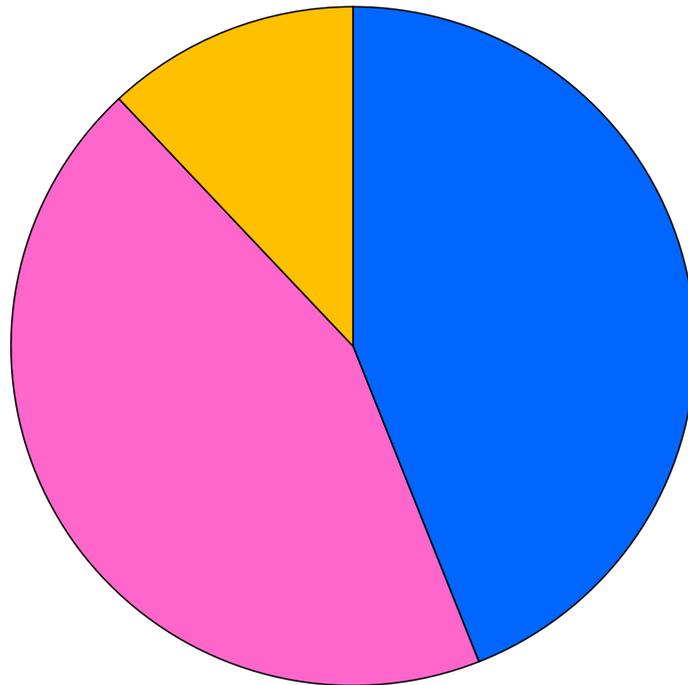
質問1 本プログラムを同僚や友人など身近な人におすすめしたいと思いませんか。1  
1段階でお答えください（10＝必ず勧める ～ 0＝勧めない）（択一式）

No	解答	人数	%
1	10＝必ず勧める	3	17%
2	9	4	22%
3	8	4	22%
4	7	3	17%
5	6	2	11%
6	5＝どちらでもない	2	11%
7	4	0	0%
8	3	0	0%
9	2	0	0%
10	1	0	0%
11	0＝勧めない	0	0%
合計		18	



質問2 本プログラムにご参加いただき、皆さまの生き方や働き方の参考になりましたか。（択一式）

No	解答	人数	%
1	大変参考になった	8	44%
2	参考になった	8	44%
3	どちらでもない	2	11%
4	あまり参考にならなかった	0	0%
5	参考にならなかった	0	0%
合計		18	



質問3 本プログラムを通して、気付いたこと、これからご自身で実践したいと思ったことはありますか。  
小さなことでも構いませんので、ぜひお聞かせください。（自由記述）

【自由記述】

- ・私自身の両親は二人とも病気でなくなったので、入退院での介護はありましたが、在宅では長く介護をしませんでしたが 連れ合いが、または、私が介護を受ける立場になった時に気持ちが前向きでいられるかを考えました
- ・スウェーデンで使われているお金。 1位、障がい者。 2位、こども。最後が、お年寄り。 とは知りませんでした。 これは国がお金をどう使うかという問題より、国民が人生・老後を捉えているかという問題に思えました。
- ・介護制度以外の面の共有、介護者たる家族のピアサポートの場として、こちらのシステムを使えると助かる方はたくさんおられると思う。
- ・介護はひとりではできない。  
社会制度を使って無理をせずやっていくことが大事だとおもった。
- ・一人を看取り、現在一人を介護中の身です。藤原さんのお話と被る部分が多くよくわかります。これから介護が本格化しようとして終える人々にとって、経験者の話ほど力強いものはないと感じます。経験者の話は「いずれ行く道」そう思うと経験者として少しでも誰かのお役に立てればと思います。
- ・正に正解のない課題に対して、非常示唆に富むお話しでした。日本とスウェーデンの違い、他律と自律は腑に落ちました。本質的な日本の課題だと思います。
- ・忍耐から自由が生まれると言う思考、冷静な自律なのか、発想の飛躍なのか。膨らみを感じられる。だから、話ができる。介護のことで、身近なひととをみていると、個人の財布、自治体、国の財政の現実がどうなのか？ということが気になった。掛け金をきちんと書いてきているのに、後だしじゃんけんのように、財政のことがふいおちない。もちろん、自律は人間の基本。しかし、土台をしっかりとすることも人間のいきる最大の条件。社会の問題をどうとらえていくかが、もうひとつの課題では。とても勉強になりました。感謝します。
- ・心に残る素敵なキーワードが沢山ありました。特に「プラズマティズム」は自分の中にとっても自然に入ってくる価値観で共感致しました。そして、柔軟性があり全ての人に開放的な藤原さんの素敵な生き方そのものだと感じています。
- ・講演中に藤原瑠美さんが 信じるだけでなく主婦の力を「信じる態度をとる」とおっしゃった事はとても大切な事だと感動しました！
- ・家族、夫婦の固い絆があるからこそ成り立っていた介護にも感じました。自身の家族について、改めて考えさせられるプログラムでした。
- ・スウェーデンでのお話で、高齢者も「自立して生きる」ことがあたりまえのように共通認識であるということに、あらためてハッとさせられました。年齢を重ねていくというのは、ハンデではなく、向き合いながら幸せに生きることを大切にしていきたいと感じたことを、自分に対しても周りに対しても忘れないようにしていきたいです。

・介護の実体験者のお話でとても参考になりました。やはり相当大変なことだと改めて再認識しました。

・経験としては、看取りを楽しむことができなかつたので、辛くなり視聴を取りやめました。

・講師のお人柄と夫婦いろんなことがあるかと思いますが、愛情を感じました。いざ自分が介護をすることになった場合、根気よく愛情をもって接していけるかは、わかりませんがその気持ちを持ち続けること、また周りの方に助けていただく大切さを学びました。

・藤原さんのお人柄の良さが一番。介護を通じて多くの苦勞があつたのだから、それを感じさせない強さ、穏やかさ、苦勞を苦勞と思っていなかつたからなのか？がスゴイと思いました。具体的にどんな苦勞や大変のことがあつたのか、それを、どう乗り越えたのかという話がきければよかつた。今だと介護保険（足りないところもちろんあるが、全体として見れば支援は充実してきている、とのおはなしでした）等級によって金額は違うけどサービスが受けられる体制があるけど当時はそこまでなかつたとのことで、経済的にはどうだつたのだろうか・・・と思いました。話を聞いていて、とにかく人に恵まれているな、と感じた。これも藤原さんのお人柄によるところが大きいのだと思つた。介護士さんも人なので、合う合わないがお互いにあると思うので運も大きい。介護を依頼する立場だと、世話してもらえないと困るので、何があつても多少の事は我慢してしまう。これは介護を受ける当事者に我慢を強いること、尊厳を傷つけることにもつながりかねない事だと思う。介護士さんの仕事も給与も高くない割に命にかかわる責任の重い仕事といわれている。依頼者、介護受ける人、介護士この3者で良い関係を構築することが大事。スエーデンは高齢者に金をかけないこと。一番は障害者次に子供というのが印象に残つた。日本は選挙対策もあるのだけれど、選挙に行つて投票する高齢者の為にお金をかけるのが一般的。投票してくれる人の要望を反映させるのは仕方ないことではあるが・・・

質問4 全体を通してのご感想やご意見、今後の開催に向けてのご要望等ございましたら、ぜひお聞かせください。（自由記述）

【自由記述】

- ・オリィさんに話や大熊ゆきさんの話が聴きたいです！
- ・出演者の体験談がとても興味深く視聴することができました
- ・素晴らしい
- ・貴重なお話でした。ありがとうございます。
- ・総じて、話しことばの訓練が不足していると思われる。
- ・今回のテーマ「介護が愛おしい」がとても心に響いた。介護は高齢社会ではみんなが課題として持っていると思う。そういった内容をこれからも取り上げてほしい
- ・介護関係で一番辛いのは介護が始まった頃だと思います。時間が経つにつれだんだん折り合いをつけられるようになるものです。最初の辛い時期をどのような心持ちであれば良いのか、深い話にはなりますがとても大事だと思います。
- ・超高齢社会の課題を捉えたテーマに関する話しに感謝します。質疑の時間がもう少し欲しかった。
- ・藤原さんが体現された「介護」は今の日本の「介護」に対する偏見の軽減に繋がると思います。このようなテーマは多くの人の関心事でもあるので今後も取り扱って頂きたいと思います。
- ・藤原瑠美さんのエキスパートトークは勿論の事  
伊庭野さんのインタビューや佐々木さんの進行も軽妙で良かったです！  
今夜の交流会はat homeな雰囲気でも和気藹々と愉しむ事ができました！  
ありがとうございました！
- ・プログラムの間にアンケート回答ができるシステムは、会場全体で参加している感じで、とても魅力的でした。また、終了後もスタッフの方も交えて、あのような形で懇親会があると思っていなかったの（自由にお話ができる座談会のようなイメージでした）、ご参加された他の方ともお話も出来、とても有難かったです。あたたかさを感じる空間に、繋がりの大切さを感じました。ありがとうございました。
- ・スタッフの皆様、大変お世話になりました。お疲れさまでした。今回の講演では介護について当然参考になりましたが、それ以上に藤原瑠美さんと八鳥治久さんの人生に興味を持ちました。もっといろいろとお話を聴きたかったです。講演終了後の懇親会ではいろいろとお話しすることができとても楽しかったですし有意義な時間になりました。今後も興味あるテーマの講演等があればまた参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・楽しむことができたなら、良かったのにとおもいます。